

幸福とマコト（新しき世界へ 1972 年 11 月号）

桜沢如一

思えば、私は一生今日まで 52 年間、自分の好きなことに反することや、ただパンのための仕事は一切しないで生きてきた。私は、わずかばかりの金やモノ、名誉のために自由を売ることは一種の宦奴であると思う。それは肉体の自由な、しかし精神の自由を奪われた悲しき奴隷である。この天下無双の我がまま気まま千万な考えは、全ての時代、全ての国の PU 人に許されてきたとは云え、ずいぶんもったいない話である。私は、この地上で最も幸福な、ほんとうに幸福な、楽しい、楽しい、ほんとうに幸せな一生を生きぬいてきた。私はそれをほんとうに感謝している。人には血まみれ泥まみれの一生と見えるだろう。みじめな、苦しい、貧しい、ふみつけられた一生と見えるであろう。しかも、私はそれをドンナに感謝していることか！その上、まだ、これから何年かこの楽しい生活は最も楽しい一路である様子だし、PU は何千年か、何万年か、いや永遠に、万世不易の光りとして残るのであるから、私はほんとうにうれしくてたまらない。

この世に私ほどの幸せ者が、またとあるだろうか？PU と云う魔法のメガネで偉大なユメを見る者ほど幸せな者が他にあるだろうか。絶対にない！PU を体得したものは、みな悲しいこの世で無限の自由を享有する幸せ者になれるのである。しかし私はもっと幸せになるらしい。なぜなら私の魔法のメガネはまだ曇っているから。

幸福は一時的なものであってはならない。一時的なものなら、それが或は一生つづいたにもせよ「終りのあるもの」であつたら、結局不幸せ以上のものではない。幸せと云うものは永遠、無限、おしまいのないものでなくてはならない。幸福とは永遠無限の別名である。つまり神の別名である。この世のモノまたはコトにはすべて「おしまい」がある。ところがただ一つ「おしまい」のないモノ、またはコトがある！それは「永遠」なるモノ、またはコト—すなわち「マコト」であり、「神」であり、それが「幸福」と云うものである。

すべての「悲しいこと」または「悲しいモノ」には「おしまい」がある。「この世」それ自らにさえおしまいがある。それなのに幸福だけ、マコトだけ、マコトの幸福だけには「おしまい」がないとは！

ああ！何と云う「有り」難いことだ！

何と云う「有り」得がたきことだ！

(1944(昭 19)年、初版「永遠の子供」157 ページより)